「観兵式」

「明治天皇陛下最近の御聖影」
『御大葬写真帖』（大正元年 9 月 22 日発行）より

「明治天皇の肖像」展

平成30年10月2日（火）～12月22日（土）

ご生誕の家　中山家跡に残る産屋

登録有形文化財「藤岡家住宅」ＮＰＯ法人うちのの館（やかた）

〒637・0016　奈良県五條市近内町５２６

☎&FAX　0747（22）4013　info@uchinono-yakata.com

9 時～16 時　月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館・高校生以上 300 円/小中学生 200 円/20 名以上 2 割引

明治天皇年表　（中山忠能家との関係など）

弘化 2 年 1845 年	（4 月 13 日）**中山忠光**生まれる。**中山忠能**の 7 男。母は平戸藩主松浦氏の愛子。後に明治天皇の母となる中山慶子（よしこ）の弟。忠光は長兄忠愛（ただなる）の養子となる。
嘉永 5 年 1852 年	（9 月 22 日/太陽暦 11 月 3 日）明治天皇、権大納言**中山忠能**邸（京都石薬師）にて、孝明天皇の第 2 皇子として誕生する。生母は**中山忠能**の娘・中山慶子。孝明天皇の女御（英照皇太后を「実母」と公称した。）後の明治天皇は、孝明天皇が祐宮（さちのみや）と命名。3 歳まで中山邸で暮らし、安政 3 年（1856 年）9 月 1 日宮中に転居。（当時　中山忠光 7 歳）
嘉永 6 年 1853 年	（6 月 4 日）ペリー浦賀来航。（7 月）ロシアのプーチャーチン長崎来航。老中首座阿部正弘は、朝廷を始め、外様大名を含む諸大名からも意見を募る。**中山忠能**（権大納言）は、攘夷論を主張。
安政 5 年 1858 年	*安政の大獄*（安政 5～6 年に大老井伊直弼が行なった尊攘派への弾圧。安政の仮条約や、家茂を 14 代将軍に定めたことに反対する一橋派の公卿・大名・志士ら百余名を処罰し、吉田松陰、橋本左内ら 8 名を死刑。 （6 月 19 日）大老井伊直弼、孝明天皇の勅許なしで*日米修好通商条約*を締結。（米側代表は総領事ハリス）
万延元年 （安政 7） 1860 年	（1 月 22 日）*遣米使節団*。横浜から日米修好通商条約批准書交換のためアメリカへ。（～9 月 27 日品川沖に帰国） （3 月 3 日）*桜田門外の変*。水戸藩からの脱藩者 17 名と薩摩藩士 1 名が彦根藩の行列を襲撃。大老井伊直弼を暗殺。 （4 月）京都所司代酒井忠義　関白九条忠尚へ、和宮の降嫁を奏請。
文久元年 1861 年	（10 月）**中山忠能**　公武合体派の公家として、孝明天皇から和宮と 14 代将軍家茂の縁組の御用掛に任じられ、和宮の江戸下向に随行する。
文久 2 年 1862 年	（1 月 15 日）*坂下門外の変*。和宮降嫁実現に尽力した老中安藤信正が、和宮降嫁に反対した尊王攘夷派の水戸浪士 6 人に坂下門外に襲撃されて負傷し、まもなく辞職する。（2 月 11 日）和宮、将軍家茂との婚儀。 （10 月）**中山忠能**　山稜修復御用。
文久 3 年 1863 年	**中山忠能**が和宮江戸降嫁随行して一部の尊王攘夷派の反発を得たことがきっかけとなり議奏を辞職して失脚する。 （2 月）**中山忠能** 7 男**中山忠光**国事寄人（こくじよりうど）に就く。（国事御用係を補佐する文久 3 年設置された役職）。 （2 月）伴林光平（中宮寺宮内）山稜修復につき、朝廷から御沙汰書を受ける。 （3 月）**中山忠光**、賀茂社攘夷祈願行幸に供奉。（6 月）忠光　京都に戻る。 （8 月 13 日）*孝明天皇大和行幸の詔*。 （8 月 17 日）**中山忠光**は吉村寅太郎を始めとする尊王攘夷派を率いて*天誅組の変*を起こすが破れ、飛船（とびふね）屋・大和屋政助の手助けで長州へ逃れ、元治元年（1864 年）11 月 15 日、豊浦（山口県下関市）で暗殺される。 （8 月 18 日）*8 月 18 日の政変*。穏健攘夷派である孝明天皇・中川宮朝彦親王および会津藩と開国派の薩摩藩が中心となり、急進・過激攘夷派である三条実美ら一部公家、長州藩の画策するクーデターを阻止し京都から追放。 （10 月 12 日）生野の変　長州藩尊王攘夷派が主体となり、但馬国生野地方の豪農と結んで起した反幕運動。七卿落の公卿　沢宣嘉を盟主に擁して生野代官所を襲撃、占拠するが 3 日間で鎮圧される。
元治元年 1864 年	（3 月 27 日）*水戸天狗党の乱*　水戸藩の尊攘派天狗党が筑波山に挙兵。8 月 18 日の政変で尊攘運動が挫折すると、天狗党の藤田小四郎らは幕府に攘夷の実行を促した。 （8 月 20 日）*禁門の変（蛤御門の変）*。前年の 8 月 18 日の政変により京都を追放されていた長州藩勢力が、会津藩主・京都守護職松平容保らの排除を目指して挙兵。御所の西辺　蛤御門で衝突。京都市中で市街戦を繰り広げた事件。京都市中約 3 万戸が焼失。長州藩は敗北。尊王攘夷派は真木和泉ら急進的指導者の大半を失う。長州藩は朝敵となり第一次長州征討が行われることになる。**中山忠能**は、長州藩の動きを支持し、復帰を考えていたが禁門の変の失敗で孝明天皇の怒りを買い出仕停止となる。
慶応 2 年 1867 年	（12 月 25 日）孝明天皇崩御（35 歳）孝明天皇の死に伴う大赦によって、**中山忠能**処分解除。 （7 月 20 日）将軍家茂は、長州再征の途次、大坂城で病死。21 歳。
慶応 3 年 1867 年	（1 月 9 日）**明治天皇**　践祚（せんそ）の儀。（皇位に即くこと）於　京都御所。（満 14 歳） **中山忠能**　将軍徳川慶喜追討の勅書である討幕の密勅を明治天皇から出させることに尽力。その後、岩倉具視らと協力し、同志の長老として王政復古の大号令を画策し、実現。政変後議定に就任。 （10 月 14 日）征夷大将軍・徳川慶喜　大政奉還を奏上（倒幕の大義名分を消滅させるためか？） （11 月 15 日）**明治天皇**　大政奉還の奏上を勅許。 （12 月 9 日）*王政復古の大号令*。新政府樹立を宣言。**中山忠能**小御所会議の司会を務める。同会議で徳川慶喜の辞官納地決定
慶応 4 年 （明治元年） 1868 年	（1 月 3 日）*鳥羽伏見の戦い*。旧幕府方挙兵。鳥羽伏見で薩長軍と交戦。戊辰戦争の発端となるが、旧幕府軍大敗。翌年 5 月まで続く*戊辰の役*（鳥羽伏見の戦い、上野の彰義隊の戦い、会津戦争、箱根戦争）の発端となる。（明治 2 年 5 月まで） 新政府軍は有有栖川宮熾仁親王を東征大総督に任じ、大坂から江戸へ撤去した旧幕府勢力を追って、徳川追討の軍を起こす。 （1 月 15 日）**明治天皇**元服。 （2 月）薩長両藩を主力とする諸兵が、東海道、東山道、北陸道に分かれて進発。慶喜は恭順の態度をとって謹慎。勝海舟を通じて交渉し、助命と引き換えに江戸城開場を約束。 （3 月 14 日）五箇条の御誓文を発布。新政府の基本姿勢を表明。（8 月 27 日）明治天皇　即位の礼。
明治 2 年 1869 年	（6 月 17 日）版籍奉還の上表を勅許。英国王族（ヴィクトリア女王の子　アルフレート訪日。**明治天皇**と会談。その後、明治 12 年アメリカ大統領経験者　ユリシーズ　グラント、明治 14 年ハワイ国王　カラカウアら訪日。**（外交）** **中山忠能**　王政復古の功により賞典禄 1500 石を永世下賜される。
明治 4 年 1871 年	（7 月 14 日）廃藩置県。中央集権体制確立。
明治 6 年 1873 年	（1 月 1 日）太陽暦を使い始める。 *明治 6 年政変*。征韓論に端を発した政変。明治天皇、勅旨を出して西郷隆盛の朝鮮派遣を中止させる。
明治 7 年 1874 年	*自由民権運動*～8 年（1875 年）。**明治天皇**「立憲政体の詔」を発する。**（これ以降、立憲制に対応する諸制度を創設）** **中山忠能**華族開館の設立に尽力、御歌会式取調係、柳原愛子（大正天皇）生母のお産御用掛。大正天皇の御用掛を担当する。
明治 21 年 1888 年	（5 月 14 日）**中山忠能**　大勲位菊花大綬章を受賞。（6 月 12 日）**中山忠能**　亡くなる（80 歳）。
明治 22 年 1889 年	（2 月 11 日）**明治天皇　大日本帝国憲法公布。（立憲君主制国家の確立）**
明治 23 年 1890 年	（10 月 30 日）教育勅語。
明治 44 年 1911 年	**明治天皇**　イギリス、アメリカなどの各国との不平等条約を改正。**（対列強政策）**
明治 45 年 1912 年	（7 月 30 日）**明治天皇**崩御。（61 歳）。（9 月 13 日）大喪の礼。於　東京・青山大日本帝国陸軍練兵場（現在の神宮外苑）

（日付は明治 4 年までは旧暦で表記）

NPO法人 うたのの館